

2018年2月5日
関東ブロック市区町村
居住支援協議会情報交換会

住宅行政・福祉行政・不動産業界・支援団体による 居住支援ワークショップの試み

埼玉県都市整備部住宅課

位置づけと経緯

- 埼玉県の居住支援協議会（埼玉県住まい安心支援ネットワーク）が例年実施しているセミナーの様様替え。
- 昨年度までのセミナーは先進事例等を紹介する講義形式 → 物足りなさが残る。
- 市町村主導の居住支援協議会設立を仕掛けたい。
→ 地域で住宅・福祉・不動産・支援団体の連携必要
- 昨年10月の関東ブロックでのWSがヒント

実施協力・参加内訳

- 協力: 国土交通省関東地方整備局
厚生労働省関東信越厚生局
(一財)高齢者住宅財団
- 参加: 住宅行政 9名(市町村8、県1)
福祉行政 7名(市町村6、県1)
住宅供給公社 1名(県住担当)
不動産業界 7名
居住支援団体 8名
→ 計32名を6~7名ずつ5グループに編成

WSのテーマと目的

- テーマ

要配慮者の住宅確保の課題と対応策を探る

－ 入居者と貸主を支援する住宅・福祉行政のあり方とは －

- 目的

要配慮者が賃貸住宅への入居を目指す場合、本人と貸主の事情がかみ合わず、契約が成立しにくいと言われている。そこで、行政、不動産業、居住支援など立場の異なる関係者が顔を合わせ、本人と貸主が置かれた状況を理解するとともに、両者に対する支援方策を考える場とする。

日時、プログラムと役割分担

- 日時

2018年1月26日(金)午後

- プログラムと役割分担

- 1 趣旨説明(埼玉県住宅課)

- 2 発題(関東地方整備局住宅整備課長)

- 3 ワークショップ1<参加者の立場・悩み・課題の共有>

(ファシリテーター:高齢者住宅財団調査研究部長、埼玉県住宅課)

- 4 ワークショップ2<事例検討>

- 5 ワークショップ3<総括討論>

- 6 まとめ(関東信越厚生局地域包括ケア推進課長)

(7 補足 居住支援協議会の現状と市町村主導での設立の必要性(埼玉県住宅課))

WSの詳細

- ワークショップ1＜参加者の立場・悩み・課題の共有＞
 - 各グループでアイスブレイク、役割分担、悩み・課題の共有
 - 全体で各班の発表
- ワークショップ2＜事例検討＞
 - 各グループで検討対象事例の決定
 - 同 対象事例について、貸主が断る理由を検討
 - 同 同 必要な支援を検討
 - 検討の視点：ふさわしい住宅、大家の不安除去、
入居者の生活安定、住宅の探し方
 - 全体で各班の発表
- ワークショップ3＜総括討論＞
 - 各グループで検討 今回のワークショップで気づいたこと、
それぞれの立場で今後一步踏み出せること
 - 全体で各班の発表

事例検討

以下の2ケースのいずれかを、各グループで選択
(実際には、更に具体的な情報あり)

ケース① 1グループが選択

- 病気により視覚障害を発症した現役世代の男性。
- 現在の住まいは出入りに危険があり、安全な住宅に転居したい。
- 将来、失明の不安あり。当面は犬を飼って散歩し、体力維持を図りたい。
- 負債あり。

ケース② 4グループが選択

- アパートの取り壊しのため、転居を迫られている高齢の女性。
- 保証人、緊急連絡先の確保困難。
- 低収入を貯金取り崩しで補っているが、2～3年で枯渇のおそれ。



参加者の反応 — アンケートから — ①

回答数 27/32

Q 参加してよかったか

評価	不動産 産業	支援 団体	住宅 行政	福祉 行政	不明
大変よかった	6	5	8	5	1
少しよかった			1	1	
どちらとも言えない					
あまりよくなかった					
全然よくなかった					

評価の根拠

- 他の属性の方の意見が聞けた。
- 自分の担当業務を異なった視点で見直すきっかけとなった。
- 活発な意見交換ができた。

など

参加者の反応 — アンケートから — ②

Q 今後の業務に生かせそうか

評価	不動産	支援団体	住宅行政	福祉行政	不明
大いに生かせる	2	4	2	1	1
少し生かせる	1	1	6	5	
どちらとも言えない	3		1		
ほとんど生かせない					
全然生かせない					

評価の根拠

- 課題の共有はできたが、現実的な対策を講じるまで至っていない。
- すぐに業務に生かせるとは思わないが、互いの立場を理解して話ができると思う。
- 窓口案内で必要な知識を深めることができた。
- 住宅部局と福祉部局で意見交換を試みようと思った。
- 福祉部局を説得する方向性が見えた。

など

Q WS形式の採用はよかったか

評価	不動産 産業	支援 団体	住宅 行政	福祉 行政	不明
大変よかった	5	5	7	5	1
少しよかった	1		2	1	
どちらとも言えない					
あまりよくなかった					
全然よくなかった					

評価の根拠

- 一般的な会議よりも多くの発言がある。
 - 疑問に思ったことがすぐに確認できた。
 - 各々の立場から率直に発言していた。
- など

企画した側として

- 不動産業界、居住支援団体、福祉行政、住宅行政からバランスよく参加していただけると不安。
→ 公募に加え、業界・団体の協力が得られ、解決
- 居住支援協議会の活動が浸透していない福祉行政から多くの参加があり、幅が広がった。
- 時間が不足するほど熱心な議論がなされた。
- 他の属性の人と意見交換できたことがよかったという感想が多く、このような場の必要性を改めて認識。